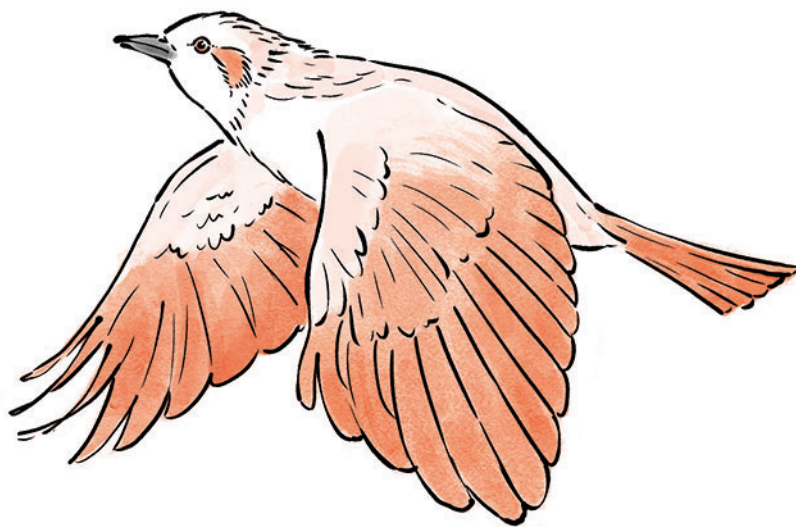


木と鳥





その鳥は、
ながくながくとび続けていました。

そろそろ羽を休めたい。

そう思った鳥は、
小高い丘の上に立っている小さな木が目にとまったので、
その枝におりてみました。



「どこから来たの？」

小さく若い木が、鳥に問いかけました。

「ずっと西から。

ずいぶんとんでいたから、遠くまできたように思うけど、
ここはどこ？」

鳥の質問に、若い木はこたえました。

「ここは福島だよ。」



「・・・福島。」

鳥はその名前から、何か思い出そうとしましたが

思い出せずにいたので、

とりあえず気になったことをたずねてみました。

「きみはここに根をはってまだ間もない感じだね。

このあたりの木はみんな若そうだけど、

古くから生えている大きな木はないの？

大きい木なら、他の鳥もたくさんとまることができるのに。」

若い木は、鳥の無邪気な言葉に少しおどろきました。

「昔は大きな木も小さな木も、

いろんな木がたくさんいたよ。

でも、ある春の日に、ここは大きく変わってしまったんだ。」

こうして若い木は、福島におきたできごとを語り始めました。

2011年3月11日午後2時46分。

三陸沖で発生したマグニチュード9.0 ※¹ 最大震度7 ※²の巨大地震は
福島をはじめとする東日本の多くの家や建物を崩壊し、
さらに地震による大津波が沿岸の街をおそったことで、
約2万人 ※³もの命が失われたんだ。

福島では、最大15mの津波が防波堤をこえてきたことで、
海に近い場所にあった東京電力福島第一原子力発電所が浸水。
3基の原子炉がメルトダウン ※⁴したんだ。

この影響で放射性物質が大気中に放出されてしまい、
原発がある場所から約30キロメートル圏内の
立ち入りが制限されてしまったんだよ。

多くの人たちが、避難生活を強いられたんだ。

※1: マグニチュード9.0の地震は、記録が残る大正12年(1923年)以降、日本の観測史上最大の地震。

※2: 最大震度7とは、「立っていることができず、はわないと動くことができない」「固定していない家具のほとんどが移動したり倒れたりし、飛ぶこともある」状態。

※3: 平成30年(2018年)3月7日時点: 消防庁災害対策本部 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震(東日本大震災)について(第157報)

※4: 原子力発電所の事故で核燃料の冷却機能が失われると、核燃料が溶けて、原子炉圧力容器に落下してしまいます。これをメルトダウン(炉心熔融)といえます。水蒸気爆発が起こり、放射性物質が直接外気に制御不能状態で放出されることになります。



地震後の状況



地震後の状況



地震後の東京電力福島第一原子力発電所



地震後の東京電力福島第一原子力発電所



帰宅困難地域



仮設住宅

震災直後は多くの人が自分の家に住めなくなってしまったけど、
福島県内では大規模な除染作業が進んだことで、
多くの場所でまた暮らせるようになったんだ※1。

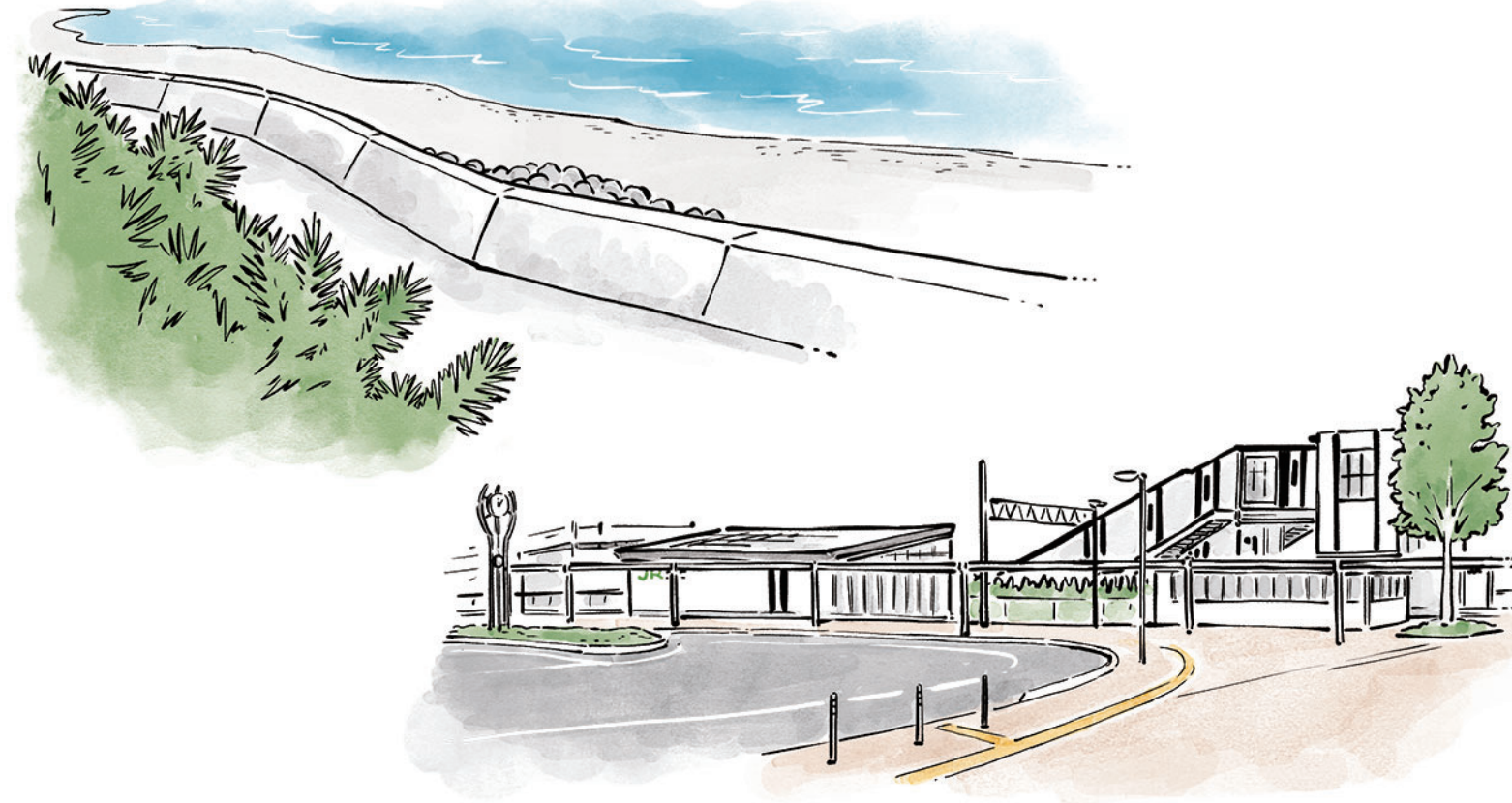
それに今では、福島の海辺地域の空間線量は、
日本や世界の他の都市と違いがないくらいに低いんだよ※2。

※1:福島県全体の避難者数は震災時は最大16万5千人だったのが2万5千人に減少(令和6年9月時点)。

※2:主要都市の空間線量率(2023年12月時点、 $\mu\text{Sv/h}$ =マイクロシーベルト/時)

〈福島市〉 $0.067\mu\text{Sv/h}$ 〈南相馬市〉 $0.09\mu\text{Sv/h}$ 〈東京〉 $0.037\mu\text{Sv/h}$ 〈大阪〉 $0.073\mu\text{Sv/h}$

〈ニューヨーク〉 $0.046\mu\text{Sv/h}$ 〈ロンドン〉 $0.108\mu\text{Sv/h}$ 〈パリ〉 $0.0438\mu\text{Sv/h}$ 〈北京〉 $0.072\mu\text{Sv/h}$ 〈ソウル〉 $0.119\mu\text{Sv/h}$



「でもね。」

若い木は少しうつむいて、こう言いました。

「放射線への誤解から

『福島は安全じゃない』って思っている人や、

過去に知った放射線の情報のままで

不安を持ち続けている人がいるんだ。」

「『福島の沿岸地域は住めない』とか

『震災のときに福島にいた人の子どもは健康に影響がある』とか

『福島県産の食べ物は危険だ』ってね。」

「じつはね、放射線は今この瞬間にも、きみのまわりに存在しているんだ。

たとえば、きみが飛んでいる空にも、

宇宙から放射線が降ってきているって知ってた？」

「え! そうなの!」

鳥はおどろいて、大きな声を出してしまいました。

「空だけじゃない。

この地面からも、空気中にも、そして食べ物にも。

世界中のどこにいても放射線はあるんだ。

でも、量がとっても少ないから、大丈夫なんだよ。」

「そうなんだ! 放射線って、とっても身近なものなんだね。」

鳥はなるほどと、うなずきました。





秋の松川浦(福島県 相馬市)



観音寺川桜並木



福島わらじまつり 福島県



福島県の特産 もも



東日本大震災・原子力災害 伝承館



豊間防災緑地に植えられたクロマツ

「ほら、空を見て。」

若い木は、両手を大きく広げました。

「福島県の空はこんなにも広くて、青く澄みわたっている。

大自然も豊かだし、夏も冬も、一年中楽しめる遊びがたくさんある。

歴史や伝統が受け継がれていて文化も深い。

海の幸も山の幸も豊富で、

食べ物はしっかり検査をしているから

安心安全で、しかもとってもおいしいんだ。

そしてなによりも、福島の人たちはみんなやさしい。

大きな災害を乗り越えたからこそ、

他の場所で災害があったときも、深く寄り添う心がある。

今もこうしてひとつひとつ、新しい木を植えているんだよ。」



「そっか。だからきみみたいな若い木が多いのか。

これから大きく育っていくのが楽しみだね。」

鳥はにっこりして言いました。

「そうだね。

でもそのためには福島のことを、もっとたくさんの人に知ってもらいたい。

正しく知ってもらおうと、もっと元気に、もっと大きくなれる気がするよ。」

「ただ、こうして根を生やしているから、それができなくてね。」

若い木のもどかしそうな顔を見て、

鳥は小さな胸をはって言いました。

「それなら、代わりにわたしが話すよ。

この羽があれば、どこにだってとべるからね。

西にも、南にも、北にも、もっと遠くにも。

みんなに福島の今を広めてくるよ。」



「また福島の話聞かせて。
今度は、ご当地グルメの話がいいかな。」

鳥は笑いながらそう言うと、
大きく羽を広げてとび立っていきました。

「また、こらっせ！」

若い木は、遠く消えていく鳥に、大きく手をふりました。



2025年2月

原案 ふくしまメッセンジャーズ